

箱根離宮と恩賜箱根公園

明治から現代へと引き継がれる名勝地



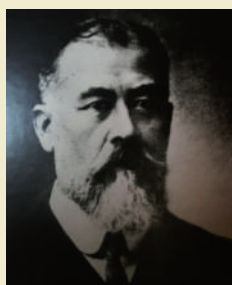
ONSHI-HAKONE PARK

箱根離宮の建設計画

箱根離宮の建設計画は明治17年（1884年）、皇室の避暑、避病の地として当地に離宮を建設しようと建議されたことから始まりました。

離宮を箱根塔ヶ島に設置することを勧めたのは、日本に招かれていたドイツの医学者であるベルツです。ベルツは予防医学の重要性を説き、箱根をはじめ、日本各地の保養地、温泉地の調査や研究を行っていました。

その意見を参考に建設を建議したのは、当時宮内卿であった伊藤博文でした。



公園内には、箱根温泉にゆかりのあるベルツ博士を記念した石碑があります。



塔ヶ島御建築掛長
この度の箱根塔ヶ島離宮の建築に
ついては、建物の位置、規模、経
費及び関係諸官庁に対する往復を
除いては、建築に関する一切の事
業を建築掛（係）において便宜を
図ることとしてよろしい。

明治十七年十月二十五日

宮内卿 伊藤博文 印

伊藤博文が建築掛長にあてた文書
（読み下し）

箱根離宮の変遷

明治19年（1886年）、箱根離宮を構成する西洋館および日本館、その他の建物が完成しました。総予算は約30万円と言われてます（当時の国家予算歳出総額は約8千万円）。

しかし、大正12年（1923年）の関東大震災で被災した西洋館はその後取り壊され、日本館も約半分の規模に。さらに、昭和5年（1930年）の北伊豆地震では日本館は一部を残して倒壊し、竣工当初の約1/7に縮小されました。

昭和20年（1945年）には神奈川県に下賜され、翌年から「恩賜箱根公園」として一般に公開し、駐車場や展

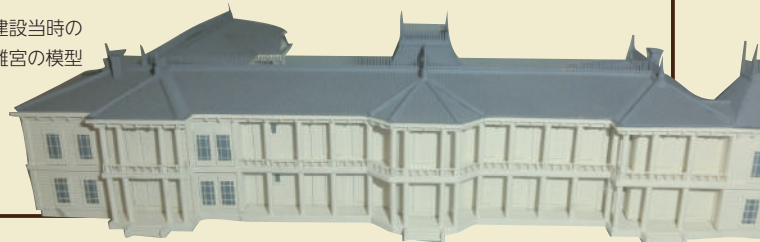
望広場など、公園の整備をすすめてきました。

平成25年（2013年）には、近代造園文化の発展に寄与したことが評価され、「国登録記念物（名勝地関係）」に登録されました。



北伊豆地震による日本館の被災のようす

建設当時の
離宮の模型





箱根離宮内部の様子

西洋館は芦ノ湖に面してバルコニー付き御座所や大食堂、サロンが設けられていました。玄関中央部には大広間があり、絨毯張りにシャンデリアや鏡が飾られ、賓客の接待に使われていました。

日本館は庭園をぐるりと囲む回廊式で、こちらも湖に面して御座所が配置されていました。

※御座所（ござしょ）……高貴な人の居室。



西洋館内部



山上門と西洋館

日本館内部



箱根を訪れた賓客

箱根離宮は皇室の避暑や保養だけでなく、世界各国の来賓をもてなす場所でもありました。

なかでも、大正11年（1922年）に来日したイギリスの皇太子エドワード殿下は、箱根の町に長く親しまれたということです。



絵葉書でみる箱根離宮



箱根と箱根離宮の遠望



東海道からみた箱根離宮（現在の駐車場）

指定管理者／（公財）神奈川県公園協会・（株）ランドフローラ
県立恩賜箱根公園 管理事務所（湖畔展望館内）
TEL.0460-83-7484 足柄下郡箱根町元箱根 171

神奈川県西土木事務所 小田原土木センター

道路都市課

TEL.0465-34-4141（代）小田原市東町 5-2-58